

ウルシ科 ウルシ属

ヌルデ (白膠木)

Rhus javanica L.

自生環境

林縁、道ばた など

原産地

日本在来

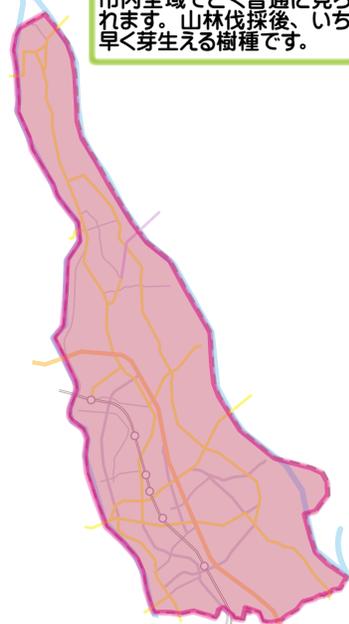
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域の樹木として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域でごく普通に見られます。山林伐採後、いち早く芽生える樹種です。



特徴

- ☆ 比較的明るい場所を好むため、うっそうした林の中よりも、林縁部に多く生えている樹種です。伐採や山火事、崩落の後などに真っ先に芽生えてくるパイオニア植物でもあります。成長が早く、樹高は5~10mほどになります。
- ☆ 同じ仲間のハゼノキやヤマウルシなどに似ていますが、ヌルデは葉の軸に翼があるので、それですぐに見分けがつかず。落葉樹で秋になると鮮やかに紅葉します。
- ☆ 雌雄別株ですが、どちらも8~9月頃になると、枝先に小さな白い花がびっしりと咲きます。花の最盛期には多数の訪花昆虫でにぎやかになります。その後雌株は、小さな平べったい果実がぎっしりとみえます。果実の表面は、塩味のする白い口物質に覆われ、これはロウの原料としても利用できます。

お歯黒にも使われた

ヌルデの葉につくヌルデシロアブラムシは、五倍子(ごばいし)という虫こぶをつくります。この虫こぶは、葉が変形して見た目が少し不気味ですが、タンニンと言う成分を多く含み、古くから人々の役に立っています。そのひとつが染料としての用途です。空五倍子色(うつぶしいろ)という薄墨のような色のもとになるほか、お歯黒液やインク原料などにも使われてきました。



雄花

雄しべは5本で、上に長く突き出す



夏、枝先にとっても小さな白い花をびっしりと咲かせる

雄株と雌株がある。写真は雄株



果実の表面にしょっぱくて白い物質がつく。集めるとロウの原料になる

冬が近づくと朱色に色づく



枝の途中につく冬芽は綿毛に守られる

枝先の冬芽は綿毛がない

葉痕は冬芽をぐるっと取り囲む



翼 葉の軸に翼がある

しょうお小葉



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

